

副官

參事官

發付

七月三日

三十八年七月一日起案

大臣

次官

經理局長

主任局員

軍務局長

局員

艦隊隊長

第一部長

第二部長

會計課長

訓令案

官房第七三四號
陸軍省官房機密第七三四号三

每

頁

0537

ラ以テ及訓令置タル南三山島燈臺
修理奉進信者、依托ノ件ニ関シ別紙
ノ通リ同者ヨリ回答有之旨条此旨心得
ハシ

但本件ニ要スル費用仕拂方ハ便
經理向長ラニ送為サレ

明治三十一年七月三日

大臣

旅順口鎮守商司人長官

0538

48
49
50

三十八年二月廿七日



依世海防を以て謀る 加藤清純の書

加藤清純の書

永田 望之助

此書者名も海防名工より此世に白浪雄也系牛島
お半城正領之者より飛つて海軍中を年々自ら了り
るべき者存海軍中牛島半城五大本工部より自
領事なるに也向て海軍の専断所也ト協議清二子西條
ら直き存るにウ取居ニテ皇威の人牛島一也居也之
しサウら由而して城を第一守備之職負以下を其地

経緯第五九號

0539

引揚に今日之を如く初めたる年島の外他ノ年島
無所成化ハ此後之ノ之ニ要スル事也其年島
者島ニ有海ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
有其地ノ子系ノ地成ニ下リ下層ニ下リ下層
有月ノ下層ノ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
即表層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
糸ノ下層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
ナリ下層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
其年島ノ下層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
一年ノ下層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層
皆年島ノ下層ニ下リ下層ニ下リ下層ニ下リ下層

0540

海軍省事務課長 樋口 大祐
白紙に捺す 東郷 平八郎

東郷 平八郎

東郷 平八郎

東郷 平八郎

明治 廿六年 七月 三日 駐米公使 藤田 鳴鶴

(う え か)

0544

三十八年七月二十日午時也今依世傳是

多作人

多作人

如孫孫孫孫孫

牛坂公孫孫孫

電傳

若報改標識者改行職工此也之費ハ如存三卷ノ末宛
致又一月二日秘外日記本存ハ是也ニ標記計ニタシ
又日記記載方得シテ教ハタシ

海

軍

0546

三月廿一日午後三時廿五分

責任人

責任人

加藤政理の父

佐世保 千坂長保

電報

般海援隊員職工永田海に五月二十五日軍務あり
去々隊員忠愛授三階、既らト看認研習とも協成ありと云
ノト信し、此の治平ニテ白旗掲げ志士可憐、其業如何ニ就く
ニ以恩ヒ、この年ハ治平ナリと真祀中、即ち志士ノ如クニ
直接ノ面ナリ、其誠致致

0549

電 報 送 達 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受	
取扱者	受信	午後 前	午後 後	時	分	字	第	報
				月	日	號	局	報
								定 指
								事 記
								注 意
								名氏所居人信受

他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符
 録シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

0551

特記

昭和十
年
四月
十日

敬

昭和十
年
四月
十日

主任職員



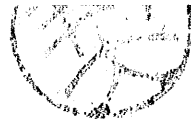
善白瀬燈台
信申
可
府
公
二十
白

白

佐世保市立中学校

0554

主務局員



九分

纂、御依、托、係、蔚、山、燈、竿、建、設、際、
該、燈、竿、ヲ、建、設、ス、キ、位、置、土、人、墳、墓、
存、在、シ、施、工、差、支、難、持、置、他、移、転、改、
葬、セ、シ、其、賄、償、ト、シ、テ、金、五、円、仕、拂、ヲ、要、
シ、其、旨、右、建、設、七、張、員、ヲ、申、出、其、事、
美、止、ム、ヲ、得、サ、ル、モ、ト、被、認、矣、余、該、燈、竿、建、
設、費、中、雜、費、ヲ、仕、拂、ノ、我、御、直、認、相、
成、其、様、致、度、坊、取、及、御、監、令、矣、也、

明治廿一年七月十四日

航空標識部在長年古時福

航空標識部在長年古時福



2/15/10

0555

海軍省経理局長村上敏次郎

0556

姓名

逕理局長



主務局員



右ノ如キ事ニ付テハ
蔚山燈台ノ事ニ付
差移給改契ニ付
該燈台ノ事ニ付
等ノ事ニ付テハ
三十八年七月二十日

既以標海差理以長
白考

五九三

庶務課
文書課
庶務課
庶務課
庶務課
庶務課
庶務課
庶務課

0557

旅順機密第五五二号ノ三

主任 局長

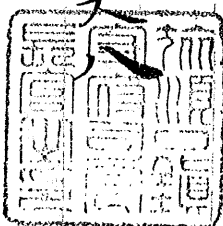
上申

官房機密第七三四号ノ二御命令相成候南三山島
燈台修繕工事一般人民渡航ヲ許サル當方面
ニ在テ之ヲ無制限ノ競争ニ付スルハ不利ト認メ候ニ付
右ノ本年五月三十日大連灣水道工事指名競争
ニ関シ電報御認許相成候資格者江森盛孝外五名
ヲレテ競争入札為致度候條電報ヲ以テ御認許ヲ仰キ
度此段上申仕候也

明治三十八年八月十三日

旅順口鎮守府司令長官 柴山 矢

海軍大臣男爵山本權兵衛殿



官房機密第九五〇號

ハサ

0558

電信指合案
孫鎮機密第五五二号ノ三南三山島燈台

大臣

次官

副官

三十八年八月廿一

經理局長

主任書記

主任書記

八廿一
發付

履歴簿

0559

海軍

修繕五年指名競年三付元件認許ス
明治三十八年八月廿二日

大臣

孫順口鎮守府司令長官

0560

上申

老鉄山燈臺ハ去ル十五日ヲ点火開始ノ處同燈
 臺ハ本府ト遠隔シ且地勢上往復ニ不便ニシテ
 命令其他ノ為ニ其都度時々使者ヲ派出セシ
 ムルハ多クノ時間ヲ要シ又老虎尾燈臺看守
 ハ白玉山燈臺ヲ兼掌スルヲ以テ至急ヲ要スル要
 務ノ生シタル場合ハ通信上不便ニシテ何レモ支障
 少カラズ此際電話線架設ノ必要ヲ認メ候ニ付
 右同地ヨリ水雷敷設隊マテ同線ヲ架設シ
 同隊ニ於テ接續交換スルコトニセハ通信上大ニ
 便利ニシテ之レカ架設費モ多額ヲ要セス即チ

官房第三四三八號

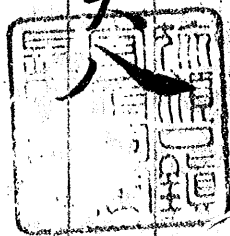
經四局

0561

老鉄山燈臺より老鉄望樓マテハ新設同所
より水雷敷設隊マテハ海軍在來線ハ添架シ又老
虎尾燈臺より其附近陸軍在來線マテハ新設同
所より水雷敷設隊マテハ陸軍在來線ニ添架スル
コトニ設計致候處談費用約千參百圓ヲ要
シ候間右施行方電報ヲ以テ御認許ヲ仰
キ度別紙圖面相添、此段上申仕候也

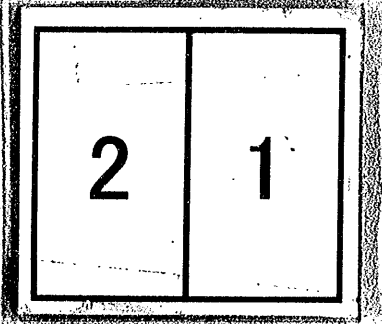
明治三十八年八月三十日

旅順口鎮守府司令長官柴山矢八

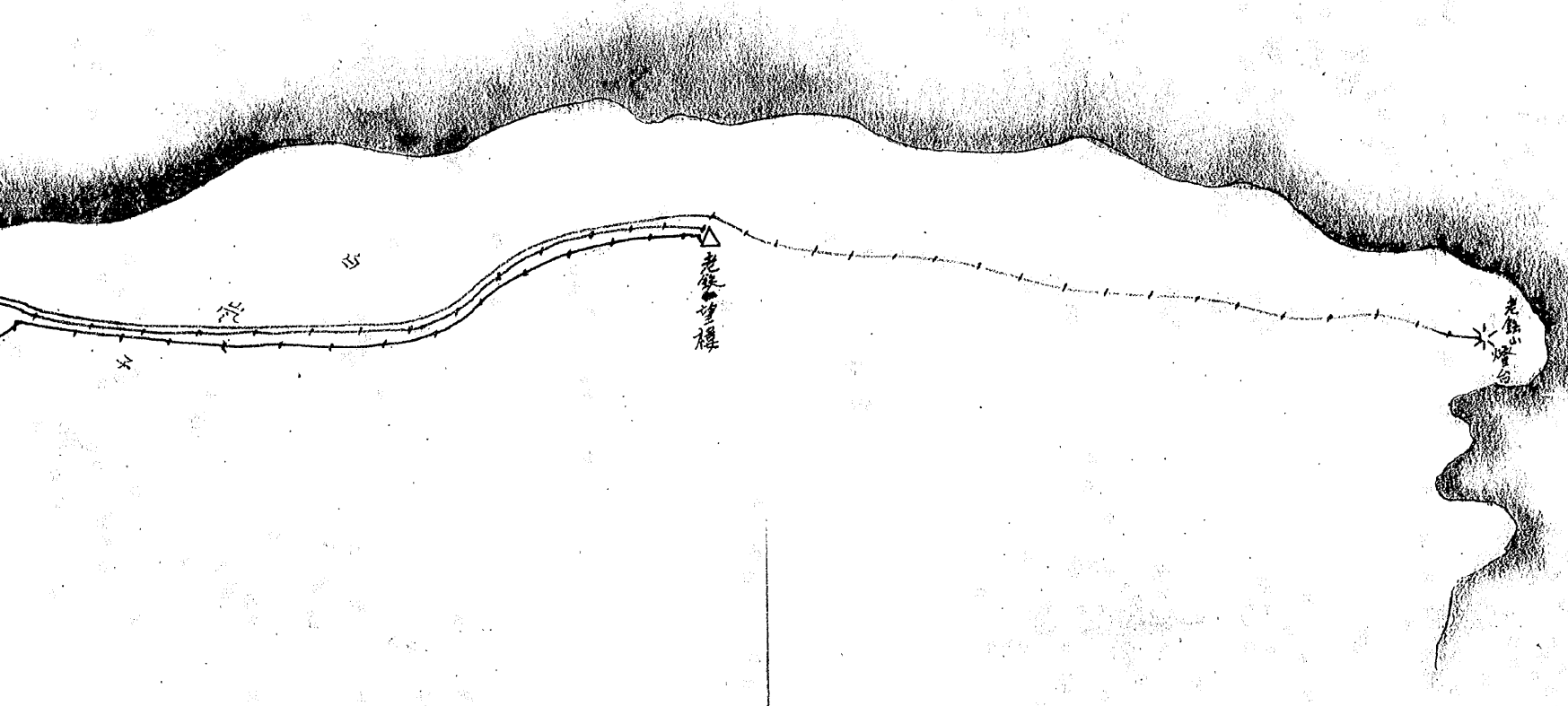


海軍大臣男爵山本權兵衛殿

分割撮影ターゲット

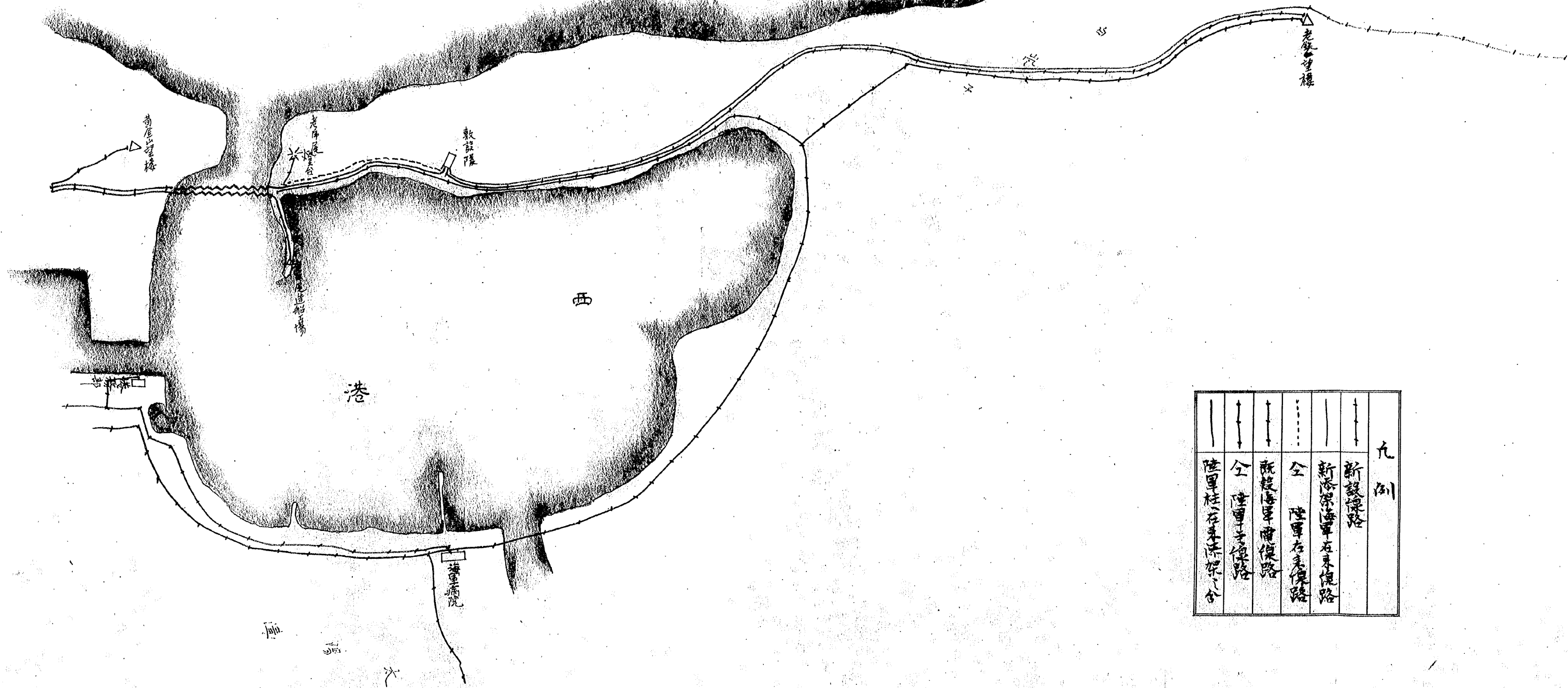
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

港務部より敷設隊より老鉄山燈台
 老席尾燈台に至る電話線路果図



	↑↓	↑↓	⋯		↑↓	九 例
陸軍柱在在架架台	全陸軍架架路	既設海軍備架路	全陸軍在架架路	新架架海軍在架架路	新架架路	

0564 0563



—	—	—	—	—	九 例
—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	
陸軍柱石	全陸軍	既設海軍	全陸軍	新設海軍	
在東洋	軍用	軍用	右左	在東洋	
架設	復路	復路	復路	復路	

副官



參事官

三十八年九月十日

日起案

九月五日

發付

大臣

次官



經理局長



主計局長



軍務局長



局長



案

旅順口鎮守府所管老鐵山及老庫尾兩

官房第三四三八號

海軍

0565

燈台間ニ電線架設ノ必要ヲ生シ良處右
線路ノ内別紙圖面朱点線ノ部分ハ貴者
所管ノ電柱ニ添架致度旨奉承認相成度
此書及監合旨也
明治三十八年九月十二日

大屋

陸軍大臣
了

0566

經理局

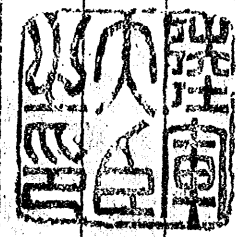
陸軍省 滄發第七九七號

明治三十八年九月十九日

陸軍大臣寺内正毅



海軍大臣青島本権吾郎



松山に在る者不省電柱ニ電線添架
、我々友方所之由工ノ多クニ照
越、其支度之在、其以、回、居、也

官房第三四三八號ノ三

陸軍省

771-02

0567

尾

軍令部長

次長

作戰班

源

九月廿一日

副官

謙

和

參事官

發付

勝

文出

大臣

三十八年九月廿一日起案

經理局長

能上

主務員

次官

能

軍務局長

能

局員

能

主務員

能

能

第二部長

能

會計課長

能

能

濟

9-21

0568

旅鎮第七五〇二老鐵山及老市尾

電信指令案

每頁

海軍

兩燈臺間電話線架設ノ件一認許ス

但添架ノ閉シテハ陸軍省ノ協議済

ニ付此旨心得ノコト

明治三十八年九月廿日

0569

主任局員



秘傳書第三四〇二

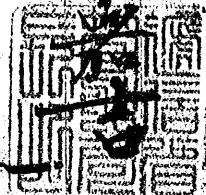
南三山島燈臺修繕工

貴有御依托、南三山島
 燈臺修繕工事、為、航路
 標識、無、管理、所、技、手、岩、崎、席
 夫、少、古、燈、臺、入、出、張、也、し、力、候
 付、現、場、於、支、拂、要、不
 此、經、費、處、辦、為、左、記、頭
 書、通、り、前、渡、官、吏、御、取、計、仕
 官、夫、入、仕、命、方、可、然、御、取、計、仕
 相、成、度、水、段、及、照、會、修、也

0570

明治廿八年九月五日

逋信省管船局長内田



海軍省經理局長村上

記

海軍省所管船局長前渡官吏
波木金吉郎、分任官吏、命大

逋信省經理局活版工場印刷

0571

執

經理局長



主査員



秘管監并三四〇号ノニシテ南ニ山

島燈臺修繕工事ニ関シ現地ニ於テ支

拂ト要元任於東京府ノ為シ宗匠ノ下吏ノ系

任方吏任下方ノ修繕工ノ致ス宗匠ハ

至及至一ノ下係於此者任下方

可成下計ノ事宗匠長ノ元宗匠及至

書

三十四年九月七日

白書

經理局長

主査員

（原 留 覽）

昭和十一年九月七日

0572

撥録第三〇九號ノ内記

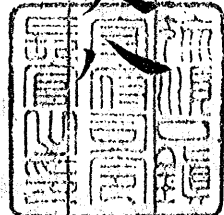
カサセ
官印

上申

南三山島燈臺完備ニ伴ヒ左記事項設備ノ必
要ヲ認メ候條右施行方電報ヲ以テ御認許ヲ仰キ
度別紙調書及圖面并ニ畧仕様書相添ニ此段
上申仕候也

明治三十八年九月二十日

旅順口鎮守府司令長官柴山矢



主任局員

經理局

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

官房第三七二一號

一 電話線架設

0573

右ハ燈臺基負ヲシテ通航船舶ノ船名ヲ防備隊ニ通知セシムル爲メ架設ノ必要アリ然ルニ同隊南三山島水雷衛所間ハ既ニ電話線架設済ナルヲ以テ燈臺衛所間架設ヲ要ス着手ノ日ヨリ二十日間ニ竣功ノ豫定

一 信号竿新設

右ハ各艦船等ト信号交換ノ必要アルニ依リ新設ヲ要ス着手ノ日ヨリ三十日間ニ竣功ノ豫定

一 油庫及雜品庫新設

右ハ露國時代ニ於ケル燈臺附属倉庫ハ燒失破壊ニ付更ニ新設ヲ要ス着手ノ日ヨリ三十日間ニ竣功ノ豫定

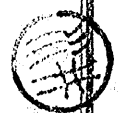
一 軒樋及土管伏

右、飲水井燈臺ヨリ數町ノ遠キニ在ルヲ以テ天水
集収、為メ軒樋新設并ニ在来溜水タンク迄土
管敷設ヲ要ス着手、日ヨリ三十日間ニ竣功、豫定

海軍

0575

南三山嶋燈臺附屬信号竿外貳廉新設工事費



一 金 參 百 拾 八 圓

附屬信号竿

外

金 參 拾 七 圓 七 拾 錢

官渡材料價格

一 金 貳 百 貳 拾 貳 圓

油 及 雜 品 庫

外

金 五 拾 八 圓

官渡材料價格

一 金 百 貳 拾 五 圓

軒 樋 及 土 管 伏

外

0576

全拾八冊八拾錢

官渡材料價格

0577



金六百圓

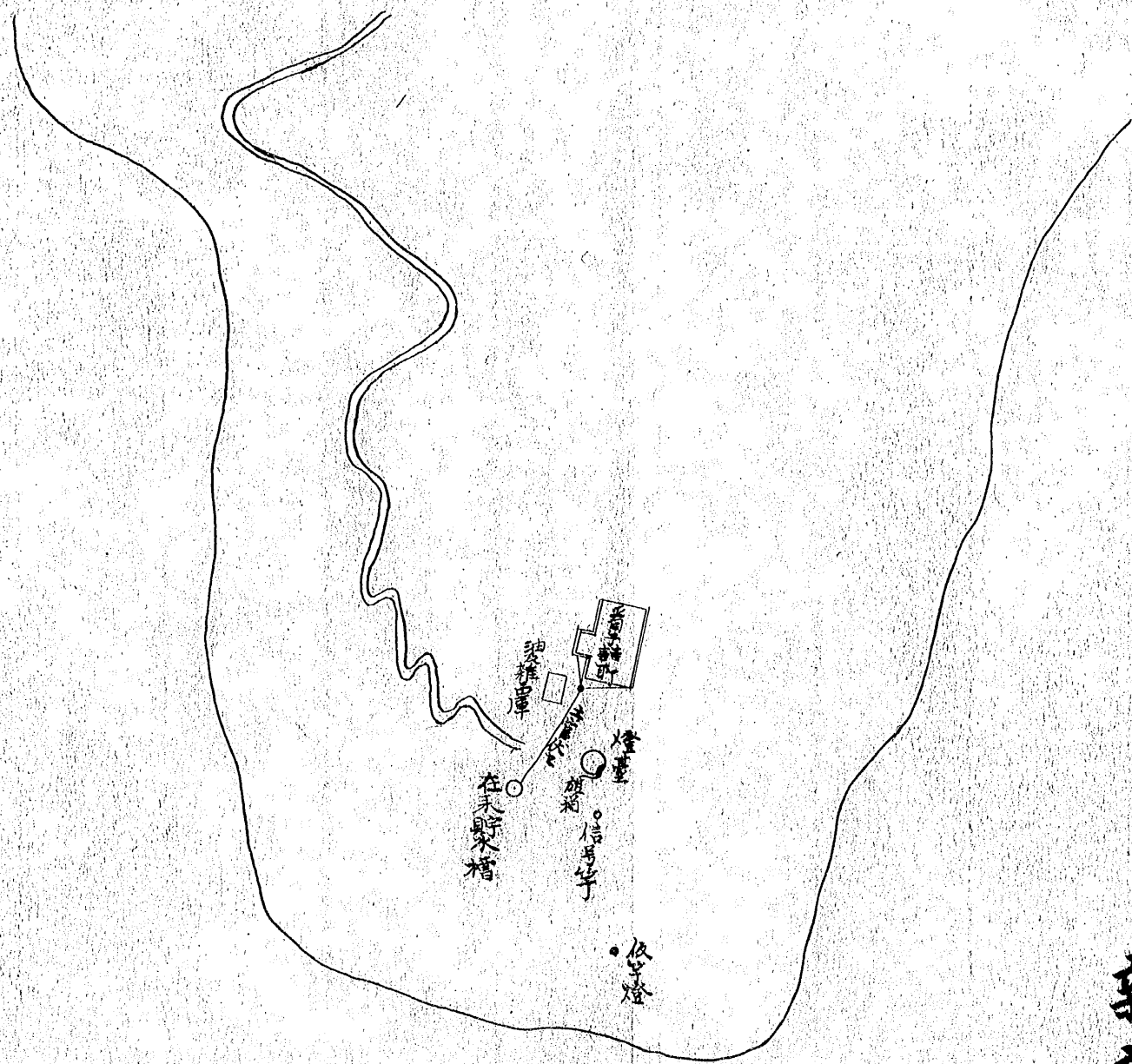
南山島燈台電管所間電話線架設工事費

海

軍

0578

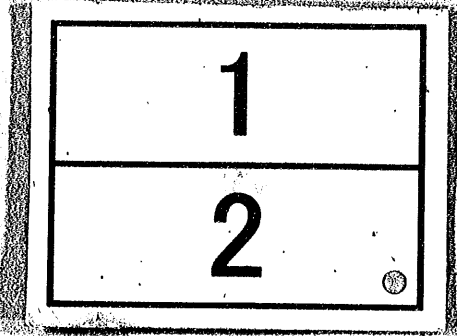
南三山島燈臺附屬信号等外貳廉
 新設位置之圖縮尺千貳百分之貳



新設
 在末

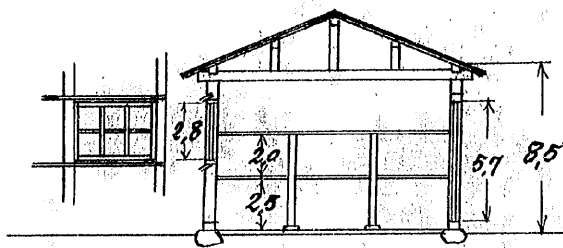
0579

分割撮影ターゲット

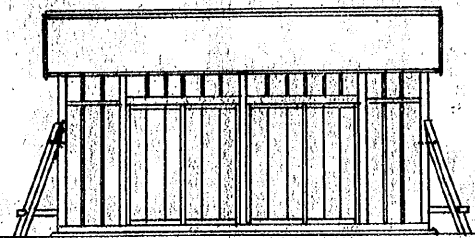
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0580
0581

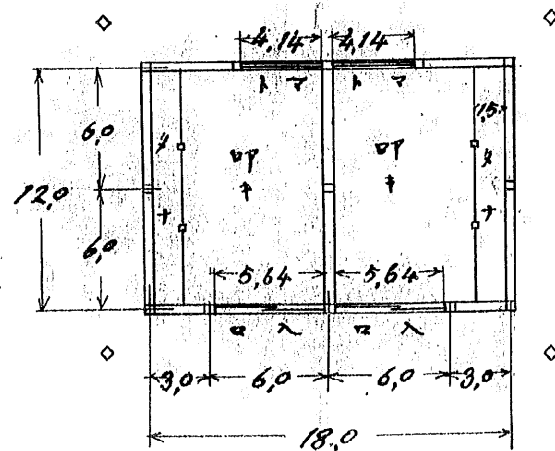
圖之面斷



圖之面正

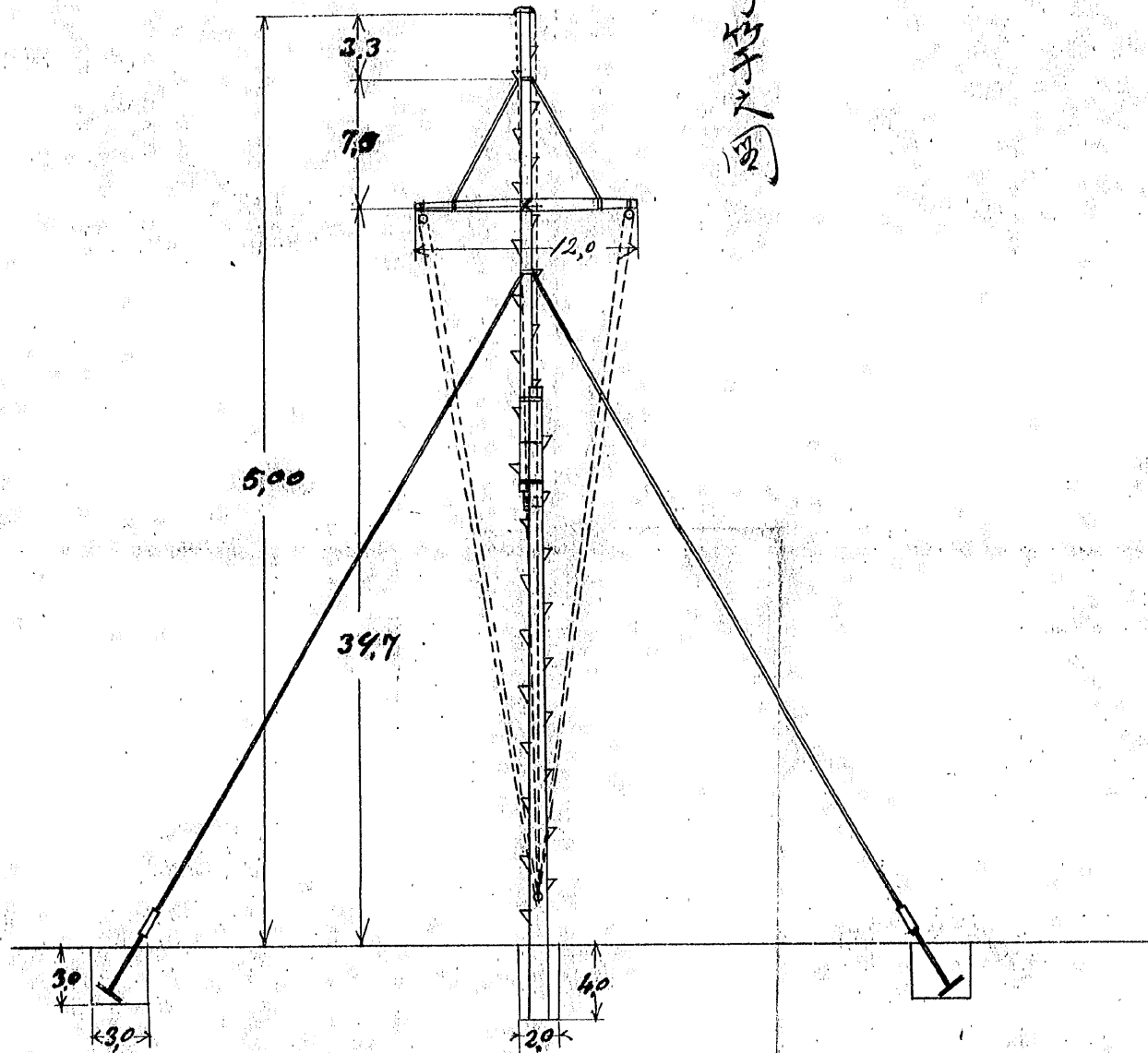


圖之面平

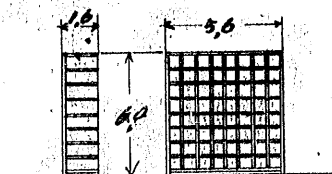


油及雜品庫之圖

信號塔之圖



圖之箱旗

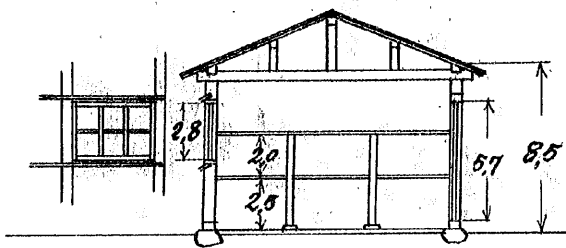


面斷 面正

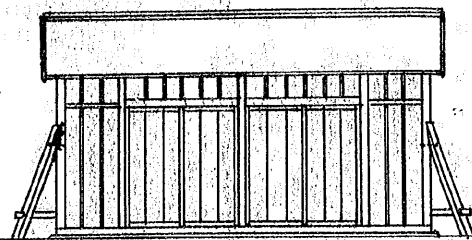
南三島燈台附属信号塔並
油及雜品庫之圖縮尺百分之一



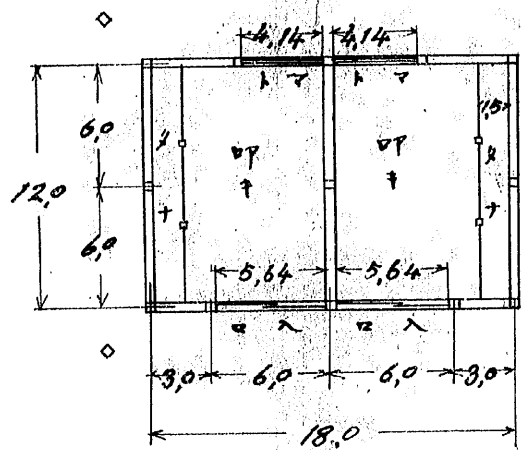
圖之面斷



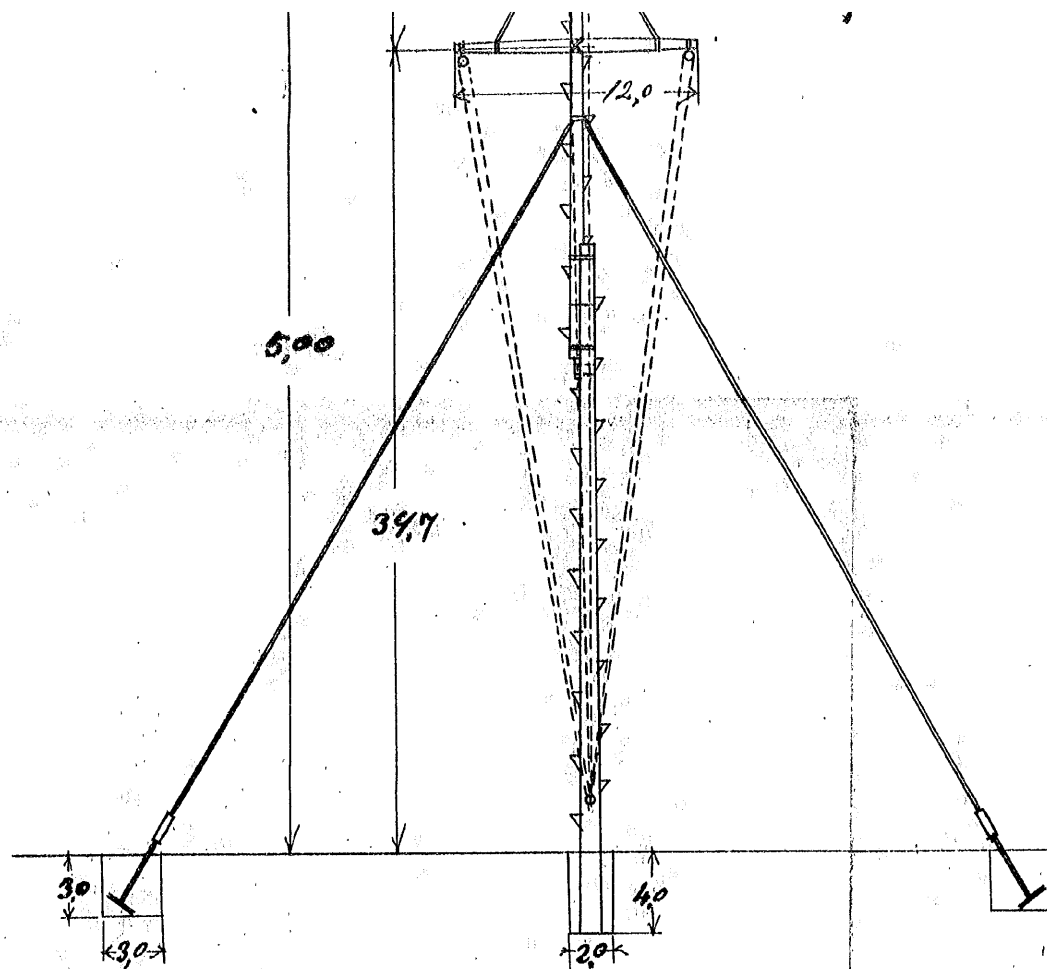
圖之面正



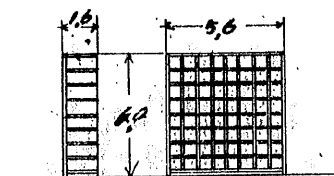
圖之面平



油及雜品庫之圖



圖之箱旗



面斷 面正

屬信號竿並
油及雜品庫之圖縮尺百分之一

南三山島燈臺基附属信号竿外貳座席新
設畧仕様書

信号竿之部

一高五拾尺 木 竿 壹ヶ所

但堀方致し取建テ竿周圍コシクリトヲ以テ埋メ堅メ

扣鋼鉄捻線ヲ以テ四方ニ取リ根元前全コシクリ

トニテ打堅メ竿継手及扣鋼取合足掛ヶ共鉄

製ヲ取付ヶ木製滑車四個及旗鋼木綿

打鈕共仕付ヶ旗箱木製ヲ燈塔内部へ取設

ヶ

油及鞋品庫之部

一桁向行 枳八尺 木造 平家建 以建 坪六坪 壹棟

軒高地盤ヨリ桁峠迄八尺五寸家根切妻造四寸五分

勾配波秋亜鉛引鉄板葺間内土間叩キ

但シ地形石据セメントモルヲ以テ据付土臺据へ

建形致シ熨斗板打家根葺立テ周圍以テ羽目

板張り出入口板戸建窓硝子障子山吹込棚貳反

木造り取設ケ

一軒通軒通及土管伏也之部

一軒通延長拾九間

一土管伏也参拾所

一土管伏也貳拾所

一藩料壹ヶ所

0583

但シ軒樋及豎樋ハ亜鉛引平鉄板ヲ以テ
 製作取付ケ樋柵ハ煉瓦造セメントモルタル
 積シ土管ハ内全參寸五分ヲ以テ伏セ込キ健手
 セメントモルタル造リ在来貯水槽迄テ連絡
 セシム在来貯水槽共加修ラ施ス事
 着手ノ日ヨリ竣切ノ日迄參拾日ノ豫定

0584

南三山島燈其水雷衛所間電話線路
架設工事仕様書

一南三山島燈其水雷衛所ニ至ル約三十丁間ニ凡
電路單線式電話同線架設スルモノニシテ
電柱建設架線方法其他左之如シ
電柱建設方法

一電柱ハ凡テ頂上ラ四十五度田錐形ニ削リ上ケ猶
頂上ヨリ五サ下リニ電柱左方ヨリ全四分ノ穴ヲ柱
心下方斜メニ四十五度深サ三サヲシテ牙ケ碍子
壹個ヲ鑿リ際迄拾込ムモノトス
一電柱各間ハ平均二十間トナレ柱身全長ノ五分ノ
壹ヲ地下ニ埋ト込メ毎柱根柢ヲ施シカブブ

アレグリアノ場合ニ凡テ支柱又ハ支線ヲ設ケ置クベシ

但レノステリ即チ支線ノ場合ハ巻キ終リテ時需用
トシテ柱上ニ突生セシムベシ

和木線方法

一線本拾毫番鉄線ヲ使用シ各線接続ハ長式
トナシ接合部分ハ凡テ電氣的接続ヲ完全ニ
施スベシ又延張シタル線ハ弛度ヲ斗リ各得子ハ
拾八番鉄線ヲ以テ堅固ニ打縛スベシ

一西極所ニニ掃線用トシテ水気板各一枚ヲ適当
ナル地位ニ設置スルモノトス

一架線全部終リタル時ハ毎電柱全部得子ヲ

除^ク外ハ^ハ瓦^ノテ^コア^マナ^リア^スカ^ルボ^リニ^ヤム^ラ以^テ除^キセ^リ
上^ル事

ト^ス右^ノ工^事ハ^契約^ノ白^{ヨリ}貳^拾間^ニ出^来セ^ルモ^ノ

0588

